

VII 外来種の監視と防除

<主要施策の取組状況>

1 外来種の監視と未然侵入防止

- ・アライグマ防除実施計画に基づき、市町村から捕獲情報・目撃情報を収集するとともに、各種調査で設置した自動撮影カメラの撮影記録からアライグマ情報を収集した。奥山・山地域での自動撮影カメラによる撮影記録はなかった。

2 侵入した外来種の防除

- ・平成 24 年度までに確立した防除及び再生産抑制方法をダム管理者が実施し、平成 25 年度以降はその効果を確認するために外来魚の生息状況のモニタリングを行った。その結果、外来魚が減少傾向にあることを確認した。

3 丹沢産緑化苗木及び緑化手法の検討

- ・堂平においてブナの種子採取を行ったほか、丹沢各地で種子の直接採取等を行い、東丹沢（堂平周辺、宮ヶ瀬湖等）や西丹沢（中川等）での緑化種子生産・苗木の育成を行った。また、一部の苗木を苗木生産者へ配布した。
- ・水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹 14 種の安定的な供給を図るため、母樹候補木から種子を採種・精選し、発芽率、成長量調査及び生産量調査を実施した。丹沢産の緑化種子生産が継続された。
- ・平成 24 年度に日向林道改良工事で現地表層土壌を活用した緑化を行った箇所について、継続的にモニタリング調査を行い、データ収集をするとともに効果の検証を行った。

○外来種の監視と防除の実施状況（平成 26 年度）

外来種の監視と未然侵入防止	侵入した外来種の防除	丹沢産緑化苗木及び緑化手法の検討
・アライグマ防除実施計画に基づき市町村からの捕獲・目撃情報の収集。 ・各種自動撮影カメラ調査による外来種撮影状況の把握。	・宮ヶ瀬湖における外来魚の生息状況の調査。調査活動を通じた防除。	・母樹候補木からの種子採種等。 ・現地表層土壌を活用した林道法面緑化法のモニタリング調査。

外来種モニタリング調査の様子（宮ヶ瀬湖）



ブナの種子採取状況



○外来種の監視と防除に関する事業実施場所（位置情報のある事業のみ掲載）

